若手職員が検討成果を発表

第４回（最終回）ワーキングの内容

もりワークの活動は、いよいよ今回がラストの第４回。

第１回から第３回までの取組を振り返ったのち、各班から施策案を実現するための事業案を提出発表し、市長、副市長、教育長等からの質疑を重ねながら、意見交換をしました。

（何と、もりワーク全体から、中山間地域へのスマートシティの先行導入についての全体施策案の提案も！）

もりワークの活動となる約４か月間、ワーキング以外にも打合せやフィールドワークを何度も重ねてまとめ上げた、皆さんの想いが詰まった施策案でした。

これまでの取組の振り返り

４月　５日：１０名の募集に対して２９名が応募。　全員をメンバーに決定！

５月２１日：・関東学院大学牧瀬准教授からの講話
・検討テーマを「働き方」「暮らし方」「遊び方」「繋がり方」として、６班に分かれて検討開始

６月２５日、・中山間地域の現地視察を実施
２８日：・地域の方々との意見交換

８月　３日：・下仲副市長講話
・中間発表（現状、課題・魅力、目標）、他班との意見交換

９月１４日：リーダー会議（横断的な施策の検討、もりワークからの全体提案の調整）

１０月　５日：最終発表　←今回はこちらです！

このほかにも、
各班７回程度の打合せ
を行いました！

施策案： A班（働き方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】

～SDGｓ日本一を目指した、野生鳥獣等の利活用に向けて～

【現状･課題】

○イノシシ・サルを始めとした鳥獣被害
（農作物の被害は年間 約４７０万円程度）
○人への攻撃や屋根裏への侵入などの生活被害
○鳥獣被害を受けた農家が離農するきっかけの一つとなっている

【施策･事業概要】

○ 野生鳥獣等利活用の検討体制の構築

- 相模原市有害鳥獣対策協議会の下部組織に「利活用」を協議する組織を構築
- 新たに商工会や麻布大学、相原高校、DMMなど知見を有する団体の参画

○中山間地域魅力体験ツアーの実施

- 小中学生に農林業などに関する働き方を知る機会の創出
- 楽しみながら学べ、泊りがけで中山間地域の魅力も感じる体験プログラムの作成（旅行代理店と協働して実施）
- １０年後を見据えた地域の担い手育成を目指す

【ワーキングを振り返っての感想】

「地域のために何かしたい」と集まったメンバーが、試行錯誤を重ねながら、ゼロから施策を立案できたことは、貴重な経験だったと感じています。
地域の皆様を始め、ご協力いただいた関係者の皆様本当にありがとうございました。

【市職員としてこれからの意気込み】

現地を見て･体験し、さらには地域の皆様や有識者の声を聴くことで新たな発見がありました。
この経験を忘れず、SDGsの達成に向け、様々な連携のもと、地域課題の解決に取り組んでまいります。

施策案： B班（働き方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】
中山間地域の資源と森ラボを活用した
新たなイノベーション創出事業

【現状・課題】
1　現状・魅力
（1）藤野駅近くのテレワーク拠点「森のイノベーションラボFUJINO（通称：森ラボ）」の開設
（2）芸術家、ソーシャルビジネスなどの仕事に従事している個性豊かな人材が多い
2　課題
（1）生産年齢人口の割合の減少が市街地よりも加速化している。
（2）中山間地域の産業の多くが後継者不足に悩んでおり、今後の事業の存続が危惧される。
（3）新しい事業にチャレンジしたくても、新たな人材の採用が困難であり、チャレンジをあきらめざるを得ない状況あり。

【施策・事業概要】
森ラボをイノベーションの拠点と位置づけ、中山間地域の課題を解決できる都心の企業とのビジネスマッチングや中山間地域の自然を活かしたワーケーションなど新しい働き方を提案することで、中山間地域の関係人口の増加や定住促進を目指していきます。

【ワーキングを振り返っての感想】
ワーキングを通じて中山間地域の皆様と対話をし、改めて、地域の現状・魅力・課題を知ることができました。
同年代の若手のメンバーで試行錯誤しながら、市長の前で政策の提案が出来た経験やB班の繋がりは、メンバーの貴重な財産となりました。

【市職員としてこれからの意気込み】
本市の中山間地域は私たちが考えている以上に大きな魅力、ポテンシャルを秘めています。地域の振興に尽力されている市民の皆さまの想いに応えるためにも、住んで良かった！と誇りを持てるように業務に取り組んでいきたいと思います！

施策案： C班（暮らし方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】

マルチストックを利活用した
中山間地域の多様な暮らし方

【現状・課題】

人口の減少・高齢化に伴う事業所数の減少や地域経済の流出、コミュニティの場の減少が起きており、このままでは暮らしの利便性の低下や移住・定住者の減少などで地域が衰退してしまいます。

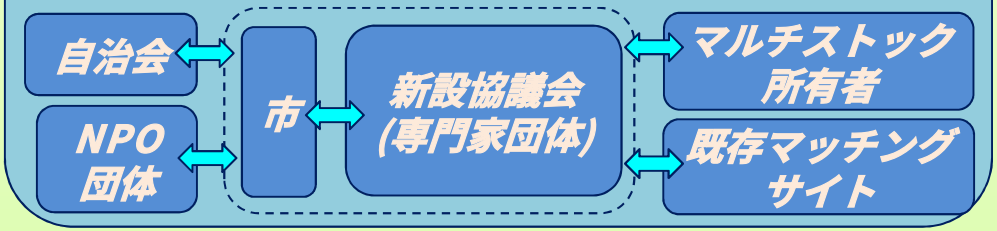
そこで、中山間地域に眠る魅力や資産を使って現状を改善できないかと考え、空き家や耕作放棄地などの遊休資産、人材、知識などの資産（＝マルチストック）の利活用事業を提案することにしました。

【施策・事業概要】

重点事業

「中山間地域マルチストック情報の
集約及び利活用促進体制整備事業」

～マルチストック情報の集約で、利活用にあたっての阻害要因の排除と利活用の促進体制を構築します～



個別事業

- 空き家サブスク移住定住事業
- 耕作放棄地の利活用事業
- 推進体制を活用した起業支援事業
- リノベーションゼミナール事業

【ワーキングを振り返っての感想】

普段の業務では関わることの少ないメンバーが集まる貴重な機会に恵まれ、大変勉強になりました。

若手職員だけで不安なことや分からないことが多い中、施策を考えるのは大変でしたが、中山間地域で勤務する班員の意見やそれぞれの所属の業務で得た知識や課題などを突き合わせて話し合うのは新鮮で楽しかったです♪

【市職員としてこれからの意気込み】

もりワークを通して得た知識や経験を
今後の業務でも活かしていきたいと思います。

施策案： D班（遊び方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】
D班が考える中山間地域の「遊び」施策

【現状・課題】
・人口減少による地域経済の衰退
・入込観光客数の減少
・情報発信の不足
・観光消費額が低調

【施策・事業概要】

施策① さがみはライター事業
（入込観光客数増加施策）

施策② カプセルトイを活用した
周遊型観光促進事業
（観光消費額増加施策）

施策③ 市施設の伐採した樹木を
活用した木工教室
（観光消費額増加施策）

【ワーキングを振り返っての感想】

ワーキングを通じて、地域の方々との交流や様々な職場の職員と一緒に活動することができ、大変貴重な経験になりました。

【市職員としてこれからの意気込み】

今回のワーキングで培った経験を生かして課題解決に向けて、積極的に業務に取り組んでいきたいと思います。

施策案：E班（遊び方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】

また来たの？アンタも好きね～中山間

～中山間地域を「遊び方」の視点から切り拓くご提案～

【現状・課題】

- 観光による地域への利益還元が少ない
- PR方法のバラつき→魅力が十分に伝わっていない
- 地域内の移動手段やトイレなどハード面の整備が必要
- これ！という地域のシンボルや観光拠点がない

【施策・事業概要】

施策①　みんなの笑顔のきっかけ作り（ＰＲ）

○市長がYouTubeで地域の魅力をPR！

○誇れる資源『津久井産材』を積極的に活用

施策②　笑顔を絶やさず過ごせる基盤づくり（インフラ）

○EVシェアリングパークを相模湖駅前に設置

○太陽光発電×EV充電器を設置→再エネを観光に活用
→SDGｓ、脱炭素ロードマップを推進！

○地域性を生かした「行きたくなるトイレ」の整備

施策③　笑顔の発信拠点の構築（観光拠点）

○４つの観光拠点を設置→災害時は防災拠点として活用

①道の駅 さがみこ→相模湖駅前に設置、電車利用者も誘客。シェアEVに乗り込み地域を周遊！

②山の駅 相模原つくい→mont-bellとコラボ。キャンプなどアウトドアアクティビティに特化した道の駅

③津久井かなはらガーデン→金原地区で農産品の販売やスマート農業体験。串川ひがし地域センターを活用

④SDGs with ART 森ラボ→ワーケーションの拠点に！

【ワーキングを振り返っての感想】

山縣：熱いメンバーに支えられ、楽しく活動できました
小福田：班での白熱した議論がE(いい)経験になりました
佐々木：様々な「繋がり」を作ることができました
加藤：活動で得た１番の収穫は、仲間が増えたことです
渡邉：メンバーの熱心な姿勢に刺激を受けました

【市職員としてこれからの意気込み】

山縣：やってみれば何とかなる!勇気を持って飛び込む!
小福田：職種を超えた協力体制を構築します！
佐々木：挑戦あるのみ！百考は一行に如かず！！
加藤：昨日よりも今日、今日より明日と常に前進できるように頑張ります
渡邉：謙虚さと勇気をもって対話を積み重ねます。

施策案：Ｆ班（繋がり方）

潤水都市 さがみはら

【タイトル】

子どもを軸としたつながりを醸成し、持続化可能な中山間地域へ

【現状･課題】

＜現状＞

○人口減少や高齢化の進行が早い
○高齢者の孤独・孤立
○子育て世帯の流出
○子育て世帯や子どもに魅力的な施設が少ない
○働く場所が少なく、若者世代の流出が多い
○生活範囲、移動手段が限られてしまう

【施策･事業概要】

①住マート寺子屋事業

中山間地域の児童がＩＴ・ＩＣＴ技術を習得し、世代間交流や中山間地域特有の課題を解決する手法を早期に身に着けることで、持続可能性の高い地域力を構築する。

②こどもたちのサードプレイス

中山間地域に子育て世帯にとって魅力ある施設がないという地域の声から 、未就学児やその保護者、さらには放課後の居場所を求める小中学生らが気軽に集える場所をつくる。

【ワーキングを振り返っての感想】

各所属の枠組みを超えて、様々な視点から検討を重ね、２つの事業を提案しました。普段の業務の中ではなかなか得られない、貴重な体験をすることができ、事務局や送り出してくれた所属元、本村市長をはじめとした講評をくださった皆様に感謝いっぱいです！ありがとうございました！

【市職員としてこれからの意気込み】

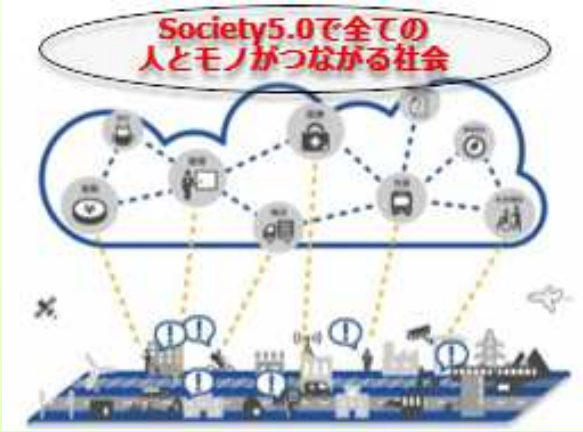
佐藤：中山間に住む職員として市民に寄り添った仕事をする！
江成：つながりのチカラで活性化を目指します！
安田：みんなが繋がりあえる元気な地域創りに貢献したい
生駒：地域住民の声を聴きながら事業を検討していきたい
稲澤：地域のニーズに合った事業を検討していきたい！

全 体 施 策 案

潤水都市 さがみはら

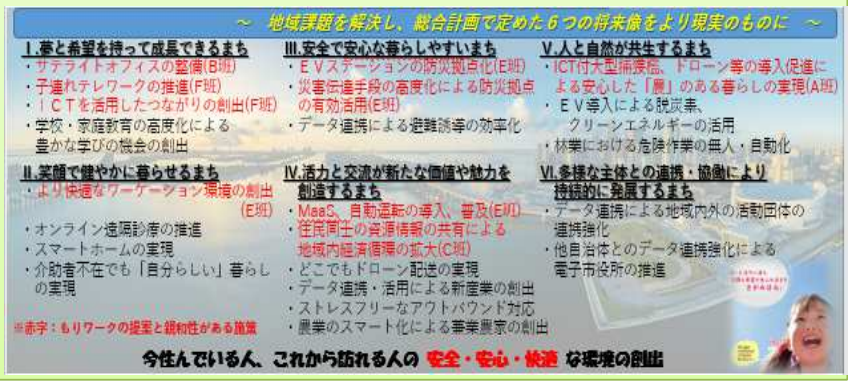
【タイトル】
スマートシティ・オクサガからひろがる「サガミハラSociety5.0」
～世界から「選ばれる場所」に～

【現状・課題】
- 都心からの良好なアクセスや豊かな自然、芸術・文化、歴史をもつ魅力的な地域
- 人口減少、少子化、超高齢化の進行による生活利便性の減少、地域コミュニティの希薄化などの課題に、市内のどこよりも先んじて直面
- 地域特有の土砂災害等への対応も求められている



【実現したいこと】
Society 5.0の先行実現に向けた「スマートシティ・オクサガ」の整備
⇒SDGs、脱炭素社会の実現や地域循環共生圏の構築を下支え
⇒人口減少等に歯止めをかけ、地域課題の解決や地域経済の発展に寄与

これにより、総合計画基本構想で定めた
「6つの目指すまちの姿」を実現



もりワーク全体から提案がありました

講評

潤水都市 さがみはら

本村市長

提案いただいた内容もそうだが、どんなこともできないで終わらせるのではなく、
どうすればできるのかという考え方で取り組んでいきたい。
相模原らしいまちづくりを進めていく必要がある。ワクワクするまちにしていきたい。
もりワークの皆さん、この経験を大切に、今後も各所属での活躍に期待しています。

下仲副市長

どの班も課題を分析した上で事業の提案がされていました。

地方創生の推進に向け、皆さんの提案を本部会議でしっかり議論していきます。

隠田副市長

すぐに取り組めることや大胆な提案もあり、非常に興味深い内容でした。

ワーキングで培った経験や人とのつながりを大切に、今後の業務に生かしてください。

森副市長

皆さんが生み出したアイデアとプロセスに敬意を表します。
「物わかりの良さ」よりも、当事者意識に基づいたたくさんの「？」を頭に思い描き発言することを、これからも大切にしてください。

鈴木教育長

地域の現状や課題、分析を踏まえ、所属に関係なく議論したことは貴重な経験です。
今後も理想の相模原市のために取り組んでください。

松井参与

各班のメンバーが今後の実践に向けて夢が膨らんだか、それが最も重要です。
また、相模原市の住民、移住者との交流は非常に重要です。今後も力を入れていってください。

おわりに

潤水都市 さがみはら

**もりワークは、市の若手職員が緑区の中山間地域を
どのようにもりあげていけるか、
地域が抱える課題と真摯に向き合い、
まとめ上げたものです。**

**提案された内容の実現に向け、
「市まち･ひと･しごと創生本部会議」で
今後議論を深めていきます。**

「市まち･ひと･しごと創生本部会議」とは
市長を本部長とした地方創生の推進等に
関する事項を審議する会議体のことを言います。

ここに住んでよかったと
市民が誇れるまちにしていきたいと考えています！